

## JENESYS2018 ASEAN 招へいプログラム第 18 陣の記録 文化・芸術交流 対象国：インドネシア

### 1. プログラム概要

対日理解促進交流プログラム「JENESYS2018」の一環として、インドネシアより en 塾（日本語で演技する劇団）に所属する大学生 8 名が 2019 年 1 月 15 日～1 月 22 日の日程で来日し、「文化・芸術交流」をテーマとしたプログラムに参加しました。

一行は、東京都内での講義の聴講及び視察後、高知県を訪問し、高知県庁への表敬、テーマ関連施設や神社仏閣の視察、関係者や同世代との交流、ホームステイを行いました。地域の人々との交流を通じて、一行は、日本で出会った人々と友情を育むとともに、日本についての知見を深め、日本の文化・芸術の魅力に触れる機会を持ち、各々の関心事項や体験について SNS を通じて対外発信を行いました。帰国前の報告会では、訪日経験を活かした帰国後のアクション・プラン（活動計画）について発表しました。

**【参加国・人数】** インドネシア 8 名

**【訪問地】** 東京都、高知県

### 2. 日程

- 1 月 15 日（火） 来日、【オリエンテーション】  
【日本理解講義の聴講】SIMA 国際経営研究所 木村 秀夫 所長
- 1 月 16 日（水）【視察】新江東清掃工場、防災体験学習（そなエリア東京）  
【文化視察】歌舞伎座ギャラリー
- 1 月 17 日（木） 東京都より高知県へ移動、【表敬訪問】高知県庁  
【文化視察】高知城歴史博物館、高知城
- 1 月 18 日（金）【学校交流】高知県立大学  
【文化体験】土佐和紙手すき、【ホームステイ】高知市
- 1 月 19 日（土）【ホームステイ】
- 1 月 20 日（日）【ホームステイ】、【地域住民・関係者との歓送会】  
【ワークショップ（報告会準備）】
- 1 月 21 日（月） 高知県より東京都へ移動  
【文化視察】浅草演芸ホール、【成果報告会】
- 1 月 22 日（火） 帰国

### 3. プログラム記録写真

	
<p>1月15日【日本理解講義の聴講】</p>	<p>1月16日【視察】新江東清掃工場</p>
	
<p>1月16日【視察】防災体験学習 (そなエリア東京)</p>	<p>1月16日【文化視察】 歌舞伎座ギャラリー</p>
	
<p>1月17日【表敬訪問】高知県庁</p>	<p>1月17日【文化視察】高知城</p>
	
<p>1月18日【学校交流】高知県立大学</p>	<p>1月18日【文化体験】土佐和紙手すき</p>

	
<p>1月21日 【地域住民・関係者との歓送会】</p>	<p>1月20日 【ワークショップ（成果報告会準備）】</p>
	
<p>1月21日【文化視察】浅草演芸ホール</p>	<p>1月21日【成果報告会】</p>

#### 4. 参加者の感想（抜粋）

##### 大学生

このプログラムに参加し、インドネシアと日本の関係がどれほど親密であるかについて認識しました。日本理解講義を始めとし、高知県への表敬、高知県立大学での交流でもそれを強く感じ、2国間の関係がお互いの発展に寄与していると確信しました。例えば、高知県立大学には友好関係に基づき、インドネシアからの留学生が二人在籍していますが、その二人の良い行いのお陰で、私たちもまた高知県に温かく迎えてもらうことができましたと思います。私たちもまたインドネシアの代表であり、そのことを誇りに思っています。ホームステイでは、家族の温かさ、愛情、思いやり、寛容、日本の文化やマナーについて多くのことを学びました。ホストファミリーは一家総出で温かく歓迎してくれました。この御恩に報いるためにも、インドネシアの友人に向け、教えてもらったことを発信していきたいです。これからの両国の関係を更に強固なものにするために、文化を始めとした様々な協力が活発になるように活動していきたいと決意しました。その一環として、今、YouTube や Instagram、Facebook などの SNS に載せるインドネシアと日本に関するビデオコンテンツを準備中です。この JENESYS プログラムを通じて、日本と諸外国、特にインドネシアとの関係が、今後ますます強固になっていくことを願っています。そしてまた、各国に“JENESYS・リンク”となる青年達が増えていくことも願っています。

##### 大学生

日本理解講義を受けたことで、もっと深く日本について知りたいという好奇心が出てきたと同時に、日本の文化とテクノロジーについて勉強したい気持ちも強くなりました。

一方で、日本の少子化問題については、この講義で初めて知りました。学校交流はとても印象に残っています。高知県立大学では、日本の学生に温かい歓迎を受け、たくさんの交流ができて本当に楽しかったです。また大学図書館が進んでいてとても驚きました。高知県はとても素晴らしいところです。高知の人々は県の方を始めとして皆が歓迎してくれて、とても親切でした。お会いできる機会があったことを嬉しく思います。ホストファミリーは本当にすてきな人達で、私がほとんど日本語を話せないと知るとコミュニケーションできるように助けてくれました。たくさんの愛情と誠意に溢れる心遣いをいただきました。私たちはインドネシアと日本のことについてお互いに語り、意見交換をしました。

### 大学生

日本のゴミ処理の方法に大変驚きました。特に、処理の過程において有害物質を取り除き、排出しないための仕組みに感心しました。ホームステイは私にとって大きな思い出となりました。ホストファミリーは桂浜やよさこい情報交流館などの興味深い場所へ連れて行ってくれたり、たこ焼きやおでんなどの日本ならではの美味しい食べ物を紹介してくれたり、その親切さが強く印象に残っています。また博物館や記念館、展示施設を整備し、様々なアイデアを駆使して伝統文化を伝承・継承しようとする日本の姿勢にも感銘を受けました。例えば高知県では「龍馬パスポート」(県内のスタンプラリー)があります。このパスポートのお陰で、桂浜水族館など高知の名所をたくさん見て周りたいとの気持ちが強くなります。今後、インドネシアと日本の関係が更に密接なものとなり、日本の優れた技術などがインドネシアにも導入されることを願っています。

## 5. 受入れ側の感想(抜粋)

### ◆ 学生(高知大学)

交流する中で、インドネシアの皆さんの日本文化に対する高い関心と、上手に日本語を話している姿にとても驚くとともに、嬉しく思いました。構内見学時には、各々の興味、関心が明確で、日本の事についていろいろと質問をしていていました。私も、今回の体験を通じて、インドネシアに興味を持ちましたし、日本文化のすばらしさを再認識できました。今後も、インドネシアとの国際交流をさらに深めていきたいと思えます。

### ◆ ホストファミリー

インドネシアの生活や文化を知ることができて嬉しく思いました。学生さんたちは、礼儀正しく、とてもさわやかで、気配りもよくできていて、気持ちよかったです。ありがとうございました。

### ◆ ホストファミリー

日本語がとても上手で、円滑にコミュニケーションを取ることが出来てよかったです。日本の食事は、何でも食べてくれて嬉しかったです。また、演劇を見せてくれましたが、すごく上手で感激しました。

## 6. 参加者の対外発信

 <p>apis_ya • Follow Tokyo, Japan</p> <p>apis_ya Hari pertama Jenesy 2018 ini bertemu dengan Teman2 Myanmar. Dan materi menarik tentang Jepang yang disampaikan sangat menginspirasi.</p> <p>#JENESYS2018 #JICE #JAPAN #INDONESIA</p> <p>59 likes 1 Day Ago</p> <p>Log in to like or comment.</p>	 <p>Instagram ログイン   登録</p> <p>sainada_osa • フォローする</p> <p>いいね! 229件</p> <p>sainada_osa Hari Kedua JENESYS 2018 (16 Januari 2019). Berkunjung ke tempat pengelolaan sampah (Shin-Koto Incineration Plant), tempat penanggulangan bencana di Jepang (Sona Area Tokyo), dan juga</p>
<p>今日は JENESYS2018 の初日です。日本に住んでいるミャンマー人にも出会いました。日本に関する興味深い講義を受けて、とても刺激を受けました。</p>	<p>JENESYS2018 二日目、ゴミを焼却する施設「新江東清掃工場」と防災施設「そなエリア東京」と歌舞伎座ギャラリーを見学しました。とても面白くて、驚きました。ゴミ処理の仕方、地震に対する備え、地震が起こった時の対処方法など、インドネシアの文化とは違うものをたくさん学びました。歌舞伎座ギャラリーでは、歌舞伎の衣装、音楽、踊りといった歌舞伎文化を展示物やビデオ映像で堪能しました。</p>

## 7. 報告会での帰国後のアクション・プラン発表

	
<p>JENESYS プログラムに参加していた間に得た日本に関する気づきの情報を、日本の伝統的な遊びである「カルタ」を活用して発信します。この「カルタ遊び」という手法で発信された情報は人々にとってより覚えやすく、面白いものとなることでしょう。例えば、「J」の札は、「JENESYS」の頭文字をとったものにします。この報告会で作った札を原案として、帰国後、写真やイラストなどデザインを加えたものを作成し、サイトを見た人たちが皆が、ダウンロードして遊べるように作成します。</p>	